

昭和58年度畑作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和58年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会を、昭和58年12月15日、協和銀行秋葉原支店会議室において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、定性試験6剤、作用性試験26剤、適用性試験39剤、細

粒剤試験7剤であった。

このうち、適用性試験、細粒剤試験については慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行なった。

その結果は、次表の通りである。

昭和58年度 畑作関係除草剤試験供試薬剤および判定・使用基準一覧表

A. 適用性試験

薬剤名 〔委託者〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(ノリ)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他.
1. AH-501® 液 〔旭化成工業〕	大豆	実	茎葉	耕起前	m/ 20~30	全土壌	温暖地西部, 暖地	
2. アラクロール 乳 〔日本モンサント〕	とうもろこし	実	土壌	播種後 ~出芽前	m/ 20~40	全土壌	寒地	・イネ科雑草優占圃場で使用する。
				播種後	20~60		寒冷地	
					30~60	火山灰土	温暖地, 暖地	
	かんしょ	実	土壌	挿苗後	m/ 30~60	全土壌	温暖地, 暖地	・イネ科雑草優占圃場で使用する。 ・ <u>紅赤では薬害が出やすいので使用をさける。</u>
	ばれいしょ	実	土壌	植付後	m/ 20~40	全土壌	寒地	・イネ科雑草優占圃場で使用する。
	さとうきび (夏植え)	実・継	土壌	植付後	m/ 40~60	全土壌	暖地, 沖縄	・イネ科雑草優占圃場で使用する。 ・ツノアイアシに対しては効果がない。 継: 除草効果の確認。 (特に低薬量)

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意，その他.
3. アラクロー ル乳+リニ ュロン水和 (現地混用) 〔 ラッソー普 及会・デュ ボンジャパ ン 〕	とうもろ こし	実	土 壌	播種後～ 出芽前	m/ 20～40 + 15 g	全 土 壌	寒 地	・ 単剤の使用基準を守 る.
4. ANK-553 乳 〔 ゴーゴース ン普及会 〕	とうもろ こし	実・ 継	土 壌	播 種 後	m/ 20～30	全 土 壌	寒 地	継：低薬量での効果の 検討。(暖地)
					20～40		寒 冷 地	
					20～30	火山灰土	温 暖 地	
					30～40		暖 地	
5. BAS-3510 液 (住友化学工業)	とうもろ こし	継						継：薬量・処理時期に ついて検討。初年 目.
6. CG-119 乳 〔 日本チバガ イギー 〕	菜 豆	継						継：効果・薬害につい て再検討.
7. ジフェナミ ド 水和 〔 日本アップ ジョン 〕	ばれいし よ	継						継：効果・薬害につい て再検討。後作へ の影響.
8. ジフェナミ ド 粒 〔 日本アップ ジョン 〕	ばれいし よ	継						継：効果・薬害につい て再検討。後作へ の影響.
9. DNBPA 乳 〔 北海三共 〕	ばれいし よ	実	土 壌	萌 芽 前	m/ 40～50	全 土 壌	寒 地	
10. EH-275 水和 〔 丸和バイオ ケミカル 〕	さとうき び(春植 え)	継						継：効果・薬害につい て再検討.
11. グリホサー ト 液 〔 日本モンサ ント 〕	さとうき び(株出 し)	中止						・ 薬害.

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意，その他。
12. HOK-833 水和 〔北興化学工業〕	大 豆 とうもろ こし	継						継：薬量増を含めて効果・薬害について再検討。混合比の検討。
13. HSW-802 乳 〔北海三共〕	菜____豆	実	土 壌	出 芽 前	m/ 40～50	全 土 壌	寒 地	
14. HSW-803 水和 〔日本チバガ イギー・北 海三共〕	菜____豆	実	土 壌	出 芽 前	g 30～40	全 土 壌	寒 地	
15. HSW-821 水和 〔北海三共〕	てんさい	継						継：薬害の検討。
16. KUH-813 乳 〔クミアイ化 学工業〕	大 豆	実	土 壌	播 種 後	m/ 80～100	全 土 壌	寒冷地， 温暖地， 暖地	
17. リニユロン 水和+パラ コート液 (現地混用) 〔デュボンジ ャパン〕	ばれいし よ	実	茎葉兼土 壌	萌 芽 前	g 10～15 + 10 m/	全 土 壌	寒 地	・ 単剤の使用基準を守る。
18. M&B- 9057 液 〔アーザラン〕 普及会	さとうき び(春植 え)	実	茎 葉	生育初期	m/ 100～120	全 土 壌	暖地，沖 縄	
	さとうき び(夏植 え)	実・ 継	茎 葉	生育初期	100～120	全 土 壌	暖地，沖 縄	継：低薬量での効果の 検討。
	さとうき び(株出 し)	実・ 継	茎 葉	生育初期	100～120	全 土 壌	暖地，沖 縄	継：低薬量での効果の 検討。
19. MCC水和 +アラクロ ール乳 (現地混用) 〔スエップ普 及会〕	ばれいし よ	実	土 壌	萌 芽 前	75～100g + 20～30m/	全 土 壌	寒 地	・ 単剤の使用基準を守る。
20. MK-140 フロアブル	とうもろ こし	継						継：効果・薬害の再検 討，初年目。

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(ノ/a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他.
20. MK-140 フロアブル 〔三菱化成工業〕	ばれいし よ	継						継: 効果・薬害の再検討, 初年目.
21. MO-338 乳 〔三井東圧化学〕	さとうき び(春植 え)(夏植 え)	実	土 壌	植 付 後	m/ 120~170	全 土 壌	暖地, 沖 縄	・ センダングサ・ツノ アイアシには効果が 劣る.
22. NC-302 フロアブル 〔日産化学工業〕	大 豆	継						継: 成分未公開, 有望.
	落 花 生	継						
	てんさい	継						
23. NP-48 (Na)水溶+ リニュロン 水和 (現地混用) 〔日本曹達〕	大 豆	継						継: 効果・薬害の再検討, 初年目.
24. NP-55 乳 〔日本曹達〕	菜 豆	実	茎 葉	イネ科雑 草3~5 葉期	m/ 15~20	全 土 壌	寒地, 寒 冷地	・ NP-48に準ずる. ・ 寒冷地では金時類に 適用.
25. NP-55 オイル乳 〔日本曹達〕	大 豆	実・ 継	茎 葉	イネ科雑 草3~5 葉期	m/ 10~15	全 土 壌	寒冷地, 温暖地, 暖地	・ NP-48に準ずる. 継: 低薬量での効果の 再確認.
26. NTN-70 水和 〔日本特殊農 薬製造〕	こんにゃ く	継						継: 処理時期・薬量に ついて再検討し, 薬 害の軽減をはかる.
27. PHW-1 粒状水和 〔アイシーア イ・保土谷 化学〕	さとうき び(春植 え)(夏植 え)	中止						・ 薬害.
28. PL水和+ フェンメデ イファム乳 (現地混用) 〔レナパック 普及会〕	てんさい (移植)	実	茎 葉	雑草発生 ~前期	g 15~20 +50 m/	全 土 壌	寒 地	・ 単剤の使用基準を 守る.
29. PP-021液 〔アイシーア イ ジャパン〕	大 豆	継						・ 初年目, 効果・薬害 の再検討.

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他.
30. プロメトリ ン水和+ア ラクロール 乳 (現地混用) 〔 塩野義製薬 〕	とうもろ こし	実	土 壌	出 芽 前	g 15～20 + 20～30 m/	全 土 壌	寒 地	・ 単剤の使用基準を守 る.
31. RSH-60 水和 〔 RSH-60 〕 研究会	さとうき び(春植 え)(夏植 え)(株出 し)	継						継: 初年目, 低薬量で の検討.
32. S-28・U 粒 〔 U-クレマ 〕 ート研究会	かんしょ こんにゃ く	実・ 継	土 壌	植付後ま たは培土 後	g 500～600	全 土 壌	寒冷地, 温暖地東 部	・ 初年目. ・ 砕土・整地・覆土は ていねいに行なって 均一散布に留意する. 継: 効果の確認.
33. SKH-21 水和 〔 シェル化学 〕	大 豆	継						継: 作用性の解明, 初 年目.
34. SL-111液 →SL-236 乳 〔 石原産業 〕	大 豆	継						継: 初年目, 成分未公 開. (SL-111)
35. SL-236 乳 〔 石原産業 〕	菜 豆	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 7.5～10	全 土 壌	寒地, 寒 冷地	・ NP-48に準ずる. ・ 金時類に適用.
	小 豆	実・ 継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 7.5～10	全 土 壌	寒 地	継: 薬害の原因解明.
	かんしょ	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	m/ 7.5～10	全 土 壌	温暖地, 暖地	・ NP-48に準ずる.
36. SL-287 水和 〔 石原産業・ 〕 〔 シェル化学 〕	大 豆	実・ 継	土 壌	播 種 後	g 20～25	沖 積 土	寒 冷 地	継: 薬量・効果の再検 討. 適用土壌の拡大.
						火山灰土	温暖地東 部	
37. SSH-55 乳 (塩野義製薬)	大 豆	実・ 継	土 壌	播 種 後	m/ 80～100	全 土 壌	寒冷地, 温暖地, 暖地	継: 効果・薬害・薬量 (100 m/)等の再確認.
	ばれいし ょ	実・ 継	土 壌	植 付 後	80～100	全 土 壌	暖 地	継: 効果・薬害の再検 討. 適用地域の拡大.

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他.
38. SSH-55 粒 〔 塩野義製薬 〕	大 豆	実・ 継	土 壌	播 種 後	g 500～600	全 土 壌	暖 地	・ 砕土・整地・覆土は ていねいに行なって 均一散布に留意する. 継：効果・薬害の再確 認. 適用地域の拡大.
	ばれいし よ	実・ 継	土 壌	植 付 後	g 500～600	全 土 壌	暖 地	・ 砕土・整地・覆土は ていねいに行なって 均一散布に留意する. 継：効果・薬害の再確 認. 適用地域の拡大.
39. TAW-19 水和 〔 トモノ農薬 〕	大 豆	実・ 継	土 壌	播 種 後	g 25～30	全 土 壌	寒冷地, 温暖地東 部	継：効果の確認. 適用 地域の拡大.

B. 細 粒 剤 試 験

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他.
1. AL-513 細粒 〔 デュボンジ ャパン・日 本モンサン ト 〕	大 豆	実・ 継	土 壌	播 種 後	g 400～500	全 土 壌	寒冷地, 温暖地, 暖地	・ 砕土・整地・覆土は ていねいに行なって 均一散布に留意する. ・ 透水性の大きい土壌 では処理後の降雨量 が多いと生育抑制が 現れることがある. 継：効果・薬害の確認. アラクロール成分含 量減の検討.
	とうもろ こし	継						継：効果・薬害の検討.
	かんしょ	実・ 継	土 壌	挿 苗 後	g 400～500	全 土 壌	暖 地	・ 砕土・整地・覆土は ていねいに行なって 均一散布に留意する. 継：効果・薬害の検討. 適用地域の拡大.
	ばれいし よ	実・ 継	土 壌	植 付 後	g 400～500	全 土 壌	暖 地	・ 砕土・整地・覆土は ていねいに行なって 均一散布に留意する. 継：効果・薬害の検討. 適用地域の拡大.
2. アラクロー ル 細粒	大 豆	実・ 継	土 壌	播 種 後	g 400～500	全 土 壌	寒冷地, 温暖地, 暖地	・ 砕土・整地・覆土は ていねいに行なって 均一散布に留意する.

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意、その他.
2. アラクロー ル 細粒 (つづき) 〔 日本モンサ ント 〕	大 豆 (つづき)							・ イネ科雑草優占圃場で使用する. ・ 透水性の大きい土壌では処理後の降雨量が多いと生育抑制が現れることがある. 継：効果・薬害の確認. アラクロー成分含量減の検討.
	とうもろ こし	継						継：効果・薬害の検討.
	かんしょ	実・ 継	土 壌	挿 苗 後	g 400～500	全 土 壌	暖 地	・ 砕土・整地・覆土はていねいに行なって均一散布に留意する. ・ イネ科雑草優占圃場で使用する. 継：効果・薬害の再検討. 適用地域の拡大
3. CG-119・P 細粒 〔 日本チバガ イギー 〕	大 豆	実	土 壌	播 種 後	g 500～600	全 土 壌	寒冷地, 温暖地, 暖地	・ 砕土・整地・覆土はていねいに行なって均一散布に留意する. ・ 水田転換畑でも使用できる.
	落花生	実	土 壌	播 種 後	g 500～600	全 土 壌 火山灰土	温 暖 地 暖 地	・ 砕土・整地・覆土はていねいに行なって均一散布に留意する. ・ 水田転換畑でも使用できる.
4. KUH-813 細粒 〔 クミアイ化 学工業 〕	大 豆	実	土 壌	播 種 後	g 500～600	全 土 壌	寒冷地, 温暖地, 暖地	・ 砕土・整地・覆土はていねいに行なって均一散布に留意する. ・ 水田転換畑でも使用できる.
5. MSR-81① 細粒 〔 丸和バイオ ケミカル・ 昭和ローデ ィア化学 〕	大 豆	実・ 継	土 壌	播 種 後	g 500～600	全 土 壌	寒 冷 地	・ 砕土・整地・覆土はていねいに行なって均一散布に留意する. 継：効果・薬害の確認. 適用土壌, 地域の拡大.
						火山灰土	温暖地東 部	
6. S-28 細粒 〔 住友化学工業 〕	ばれいし よ	実・ 継	土 壌	植 付 後	g 400～500	全 土 壌	暖 地	・ 砕土・整地・覆土はていねいに行なって均一散布に留意する. 継：効果・薬害の確認. 適用土壌, 地域の拡大.

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量(／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意、その他.
7. SR-793 細粒 〔 日本化薬 〕	大 豆	継						継：初年目、効果・薬害の検討.

注) ① アンダーライン(実線)は、本年度拡大または追加された部分である。なお、薬剤名のアンダーラインは、本年度はじめて使用基準の作成されたものである。

② アンダーライン(点線)は、その一部が拡大されたものである。

昭和58年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和58年度水稻・畑作関係生育調節剤試験成績検討会は、昭和58年12月12～14日の3日間、協和銀行秋葉原支店会議室（東京都千代田区神田和泉町1）において開催された。

水稻生育調節剤試験は、作用性19剤（のべ52点）、適用性20剤（のべ141点）について行なわれた。本年度、新規に実用化可能の判定を得て、使用基準の作成されたものは、BAS-106 水和剤（健苗育成）、CGR-811 水和剤（健苗育成）、イソプロチオラン粒剤（健苗育成）、イソプロチオラン水和剤（ムレ苗防止）、NTN-821 水和剤（健苗育成）、SF-8002 乳剤（ム

レ苗防止）、SF-8002 粉剤→TPN・ベノミル 水和剤（TPN・ベノミルとの混用および近接処理での安全性の確認）、タチガレン粉剤（湛水直播水稻の初期生育促進、カルパー混用）であった。

また、畑作関係生育調節剤は、作用性3剤（のべ6点）、適用性3剤（のべ7点）の試験が行なわれた。本年度新規に実用化可能の判定を得て使用基準の作成されたのは、C.C.C.液剤（秋播小麦倒伏軽減）であった。

なお、薬剤別の判定結果および実用化薬剤の使用基準は、次表の通りである。

昭和58年度 水稻・畑作関係生育調節剤判定結果および使用基準

1. 水 稻 関 係

薬 剤 名	有効成分・含有率(%)	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1. BAS-106 水和	テトシクラシス1	〔 作用性 〕 ①床土の種類と効果の関係。 ②温度の影響（作期による影響）。	実・継	24時間種子浸漬処理。 0.5～0.75 g/l.	①体系処理の検討。 ②床土の種類と効果の検討。 ③適用条件の検討。